狩野興甫筆「唐人物図屏風」2曲1隻
（和歌山県立博物館蔵）

令和 2 年 11 月 26 日	
資　料　提　供	
担当課(室)	県立博物館
担当班･係	学芸課
担　当　者	学芸員　新井美那
電　　話	073-436-8684(学芸課)

収蔵品から選りすぐりの屏風をご紹介

-県立博物館企画展 の開催について-

屏風は古くから調度品として用いられてきました。蛇腹状に折り曲げて立てめぐらせ、六つの面をもつものを二つで一組とする「六曲一双」を基本としながら、二曲や八曲などの形状や、対をもたない一隻で独立した作品となるものなど形式は様々です。一隻を一続きの大きな画面として用いることもあれば、一扇ごとに異なる書画を貼りあわせて構成されることもあります。ダイナミックなパノラマ、一隻、一扇ずつの対であることを生かした画面の対比、正方形に近い二曲屏風の構図など、折れ曲がり展開する屏風は私たちの目を楽しませてくれます。

このたびの展示では、和歌山県立博物館に収蔵されている屏風の中から物語、山水や和歌浦の景観、花木を描いた作品を中心にご紹介いたします。あわせて屏風と同じく対の美を楽しむ絵画や陶磁器も展示いたします。

（※別添のちらし・展示のみどころもご参照下さい。）

企画展「屏風の美　-収蔵品の名品から-」

会期　　令和２年１２月５日(土)～令和３年１月２４日(日)（展示日数３８日）
開館時間　９時３０分～１７時（入館は１６時３０分まで）
入館料　　一般 280 円（230 円）、大学生 170 円（140 円）
※（ ）内は 20 人以上の団体料金
高校生以下、65 歳以上、障害手帳をお持ちの方、県内の在学中の外国人留学生は無料
１２月６日(日)は無料入館日
休館日　　月曜日(但し、１月１１日(月・祝)は開館し、１２日(火)は休館します)、
年末年始(１２月２８日～１月４日)
展示構成　Ⅰ 物語をめぐる　Ⅱ 紀州をいろどる対の美　Ⅲ 花をながめ春を待つ
展示総数　17件24点（県指定文化財1件を含む。詳細は別添ちらし参照）

※会期中のイベントについては、新型コロナウィルス感染防止のため、中止します。

担当者　　学芸員　新井美那
〒640-8137　和歌山市吹上一丁目４－１４
(TEL:073-436-8684／FAX:073-423-2467)

（※資料カラー画像を提供できます。このメールアドレスに、その旨ご連絡下さい）

展示のみどころ

1、迫力のある大画面

描かれた題材のテーマごとにさまざまな屏風が並びます。絵巻に描かれた屏風にも注目です！

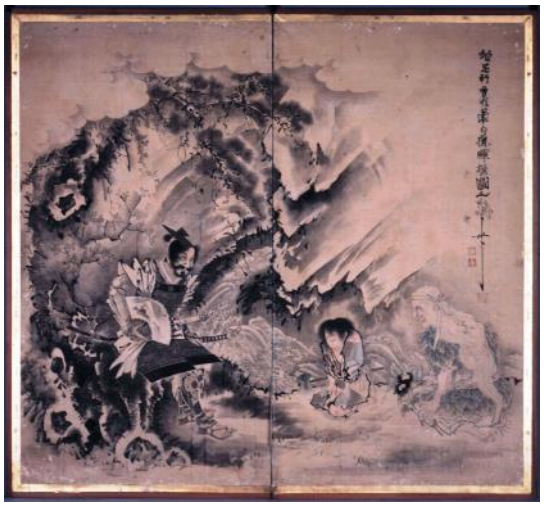
左隻

右隻

「源平合戦図屏風」　6曲1双（和歌山県立博館蔵）

右隻には一ノ谷を、左隻は屋島を中心とした場面が ひと続きの大画面に展開する。金雲により区切られた画面には、名場面の逸話がちりばめられている。平家を平安貴族風に描く点がめずらしい。

［展示番号1］



２、今しか見れない！秘蔵の作品の公開

和歌山県立博物館ではめずらしい、屏風というテーマだからこそ輝く作品の魅力をお伝えします。

「頼光金時図屏風」曽我蕭白筆　2曲1隻（個人蔵）

作者の曽我蕭白は江戸時代に活躍した「奇想」の画家の一人。母の山姥と共に、金太郎こと坂田金時が主従関係をむすぶ 源 頼光と出会うシーンを描く。怪異な風貌の人物が目を惹く。

［展示番号2］

３、屏風だけではない「対」の作品の魅力

六曲一双を基本の形式とする屏風と同じく、対になる一組の絵画や、紀州でつくられた陶磁器も展示します。

「南紀男山焼 交趾写二彩獅子形屏風挟」　1対

（和歌山県立博物館蔵）

屏風の転倒を防ぐために用いる。鮮やかな紫と浅葱の釉が施された交趾写の型づくりと思われる愛らしい阿吽の獅子。底には南紀男山焼を代表する陶工、光川亭仙馬の刻印銘「仙馬」を確認できる。

［展示番号13］